

図門江開発と東北アジアの経済発展（1）

東京工業大学経営工学専攻専任講師 曹徳弼 (03-5734-3570, cdb@me.titech.ac.jp)

1991年、国連開発計画（UNDP）は図門江開発計画を東北アジア発展の最重要プロジェクトとして考えることを宣言した。図門江開発計画とは、中国、ロシア、朝鮮の国境地帯を流れて海に入る川、すなわち、図門江の周辺地域を20年の期間内に300億ドルの資金を投入して開発し、香港のような交通、運輸、貿易、および金融の中心地の一つにすることである。この計画は国連開発計画プロジェクト顧問、中国吉林省政府副秘書長兼吉林省政府図門江地区開発弁工室主任である丁士晟教授（吉林大学）が提案したもので、1990年中国政府が、中国吉林省琿春市（現在は経済特別区）の防川（昔の人民公社の大隊、現在の村）に港をつくり、図門江を利用して日本海へ進出する計画を発表したことが最初である。その後、6年間の東北アジア各国間の交渉を経て、去年（1997年）やっと図門江開発計画の多国間協力が合意され、今年から本格的な開発が始まると伝えられている（人民日報海外版1997年12月11日第1面）。

筆者は経済学が専門ではないが、たまたま琿春出身であるということで前からこの計画に非常に興味を持っており、いろいろな情報を収集していたので、ここで皆さんにいまの図門江開発と東北アジア経済発展についての情報を提供できればと思う。

周知のように、アジア経済、強いては世界経済は全体的には停滞しており、新しい開発地域、新しい刺激を求めている。世界一のGDPの伸び率を誇っている中国でも、国営企業問題などで悩まされており、特に東北アジアとして認知されている東北の3省はその影響がかなり深刻である。従って、東北アジアの発展は東北アジア諸国の経済に恩恵を与えるだけでなく、世界経済の刺激にもなるはずである。しかし、東北アジア、または環日本海経済圏と言われている、中国（東北3省）、ロシア（極東地域）、モンゴル、北朝鮮、韓国、日本の六カ国は、それぞれ国の制度が違だけでなく、文化やイデオロギーの面でもかなりの差が見られ、香港やECのような経済圏にはなり難く、ロシアと日本の学者の間では環日本海経済圏は自然発生的性格をもつ自然経済領域（Natural Economic Territories, NETS）になるだろうとの見方が多い。

しかし、近年の東北アジアの変化を見ると、環日本海経済圏構想のネックとなっている問題点は次々と解決の展望を見せており、私は必ずしもNETSの見方に捕われて、消極的に対応することが各国の国益になるとは限らないと考えている。特に日露首脳会談や朝鮮の羅津・先鋒自由経済貿易区域の設置、そして韓国の金大中大統領の誕生と中、韓、日、朝、米、ロ会議構想などは、いままでの流れや見方を変えるべき材料ではないかと思う。

中国は環日本海経済圏構想の原動力になっていると言われている。経済発展も目覚しく、81年と90年の輸出/入額の増減はそれぞれ、対日が、61%/76%、対ロシアが、1290%/1286%、対韓国が、不明/982%、対朝鮮が、-2%/11%、対モンゴルが、620%/不明、となっており、特に対ロシアの貿易の伸びが著しい。貿易額の順位としては日本、ロシア、韓国、朝鮮、モンゴルの順になっており、日本と

の貿易額はロシアの4倍になるなど中日貿易が圧倒的に多い。その内、対ロシアの貿易はほとんど東北3省であり、黒龍江省が圧倒的に多い。吉林省の貿易は大連と黒龍江省を経由するものが多いが、中国の対朝鮮貿易の多くは吉林省で行われている。図門江開発の一環としてすでに琿春とロシアのザルビノ港を結ぶ鉄道が完成されており、図門市から琿春市までの準高速道路に加えて、長春から琿春までの高速道路の建設がかなり進んでおり、琿春から防川までの高速道路も着工済みである。中国政府はここ10年間40余億人民元(約600億円)を投資し、火力発電所、空港、鉄道などのインフラ整備をして来たと言われている。

図門江開発計画も朝鮮の清津港中心案、ロシアのザルビノ案、中国の防川中心案、国際都市案などがあったが、最終的には修正防川中心案に収束し、琿春、ハサン(khasan)、羅津3都市の開発が本格的にスタートしている。3年前まで消極的だったロシアがいまは、防川に隣接するハサン地区を「ハサン・図門江自由経済区域」に設定し、「ハサン・琿春海陸一貫運輸センター」を設置しただけでなく、ハサン・図門江地域の開発のために日本輸出銀行から2・4億ドルを融資してザルビノ港拡大建設を始めている。朝鮮も毎年5000万ドルを羅津・先鋒自由経済貿易区域に投入し、インフラ建設に乗り出している。どう見ても、環日本海経済圏の将来は明るいことが間違いなさそうである。20年後、いや、10年後、この地球に残っている数少ない経済発展フロンティアは、必ず東方の真珠のようにきらきらと輝くだろう。

今回は中国吉林省と琿春市の紹介、そして朝鮮の羅津・先鋒自由経済貿易区域を紹介したいと思う。また、この環日本海経済圏に興味をもつ方はぜひ本文を評論してほしい。
(待続)

天池倶楽部からのお願い

当倶楽部は中国朝鮮族の交流を促進することを目的とした非営利的組織です。交流、協力及び共同发展をモットーに共に活動して行きたいと思えます。活動は会員の皆さんの会費と寄付金により運営されており、毎月最後の日曜日の午後、文京区役所で定例会を行います。また、会員様に天池人文をお届けします。今後とも暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。

年度会費

正会員 3,000円

購読会員 2,000円(年12回の郵便料として)

振込先: 東京三菱銀行 小飯田橋支店

テンチクラブ インショウシュ サマ

0005-071-0228416

連絡先: 〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 4-3-1-303

TEL:03-5668-4751

FAX:03-5668-4750

天池倶楽部 事務局 尹昌洙

第39回天池クラブ例会

今年の就職活動もすでに始まりました。就職はしたいけれども、どんな方法で就職活動を進めるか全く知らなくて悩んでいる人が我々留学生の中には少なくないでしょう。日本の大学生は4月の学期が始まると、大学のOBを通じて各会社に見学を行い、就職先を決めます。しかし、我々留学生の中では、いろいろ違った国内経歴と日本での身分（日本語学校、大学、大学院等）を持っている人が多いです。皆が日本人学生と同じ就職活動をするのは不可能かつ不効率であると思います。我々天池クラブのメンバーの中では、いろいろなパターン（日本語学校から、大学から、大学院から）で就職した人と自営をしている人がいます。

今月の例会は、すでに就職、自営している‘先輩’たちの経験を簡単に紹介した後、質問・答えの形で経験交流を行う例会にしようと思いますので、就職と自営を希望している皆様は奮って御出席して下さい。

なお、就学のための情報交換も同時に行いますので、就職に関する情報を得たい方も積極的にご参加して下さい。

日時： 1998年5月31日（日曜日） 午後 6：30～9：20

地点： 東京都文京区区役所ビル5階研修室B
（地下鉄丸の内線後楽園駅北側或は東京ドーム北側）

議程： 6：30～7：30

‘先輩’たちより就職経験と自営の創業経験の簡単な紹介

7：30～9：20

質問・答えの形で就職、自営の創業、進学に関する交流